

「ネアカのびのびへこたれず」の精神を持った 日本で活躍する海外のビジネス人材育成

学校法人中内学園 流通科学大学

流通科学大学



流通科学大学キャンパス

という考えのもと1988年に開学されました。中内氏の座右の銘でもある「ネアカのびのびへこたれず」という言葉は、同大学の校是にもなっており、この精神を持った人材の育成を目標としています。

2024年5月1日現在、3学部7学科1研究科を有し、学内では18の国や地域の留学生が学んでいます。留学生数は、全学生3,626名のうち約1,050名（全学生数の約30%）であり、全国においてもトップクラスの留学生数・割合となっています。

今回は、留学生の積極的な受入れと卒業後の活躍までを見据えた環境整備などについて取材しました。

◆留学生受入れ戦略について

同大学は、日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先『日本留学AWARDS 私立大学文科系部門（西日本地区）』（主催：一般財団法人日本語教育振興協会）において4年連続の大賞を受賞しています。大賞の受賞に加え、今年度より新たに設けられた『非漢字圏留学生に勧めたい進学先部門（西日本地区）』にも選出されています。

同大学が高評価を得た理由には、主に生活面、学修面、就職面での留学生サポートや日本語学校との連携、教育内容等が充実していることが挙げられています。

現在では、このような高い外部評価を得ていますが、当初から留学生募集が上手くいっていたわけではありませんでした。

開学当初より、中内氏は、「発展途上国を含めた太平洋沿岸諸国の人々に大学に集まって学んでもらい、流通の理解者を増やしていきたい。」と考えていました。その思いを具現化するために、留学生募集の更なる強化を始めたのが、約10年前になります。

優秀な留学生を獲得するために、これまで行っていた地元・関西の日本語学校からの募集だけではなく、日本全国の日本語学校に募集エリアを拡大すべきだと考え、首都圏を中心に募集エリアを拡大していきました。そして、同大学の強みとしている手厚い留学生支援や教育内容を、日本語学校を訪問し、直接日本語教員と面談して、理解していただくことから始めていきました。

留学生数が現在ほど多くはなかった当時は、しっかりと話を聞いてくれるような学校も少なかったようです。しかしながら、その問題を解決する即効性のある画期的な策はないと考え、対面の訪問活動を地道に重ねていきました。訪問した学校の卒業生の情報をお伝えする際に

も、良い情報だけでなく、普通なら隠したくなるようなネガティブな情報も包み隠さずお伝えすることで信頼関係を構築していきました。

また、海外現地からの学生募集にも力を入れており、中国や韓国、ベトナム、インドネシアを中心に現地の日本語学校などに訪問しています。中国や韓国、ベトナムでは海外現地での入試も実施しており、留学生のニーズや利便性にも配慮しています。

そのような地道な活動を重ねたことで、日本全国や世界各国からも徐々に入学者が増え、それに伴い留学生コミュニティの中で口コミが形成されていき、好循環が回りはじめました。10年前までは、留学生の割合は1割を切っていたこともありましたが、現在では、毎年約200名の留学生が入学してきており、直近では約300名もの留学生が入学してきています。

◆留学生に対する充実した支援体制

同大学では、これまでの留学生の受入れ実績を踏まえ、総合的に留学生をサポートできる体制が整備されています。奨学金についても、留学生の8割から9割程度が受給しているほど経済的な支援も充実しています。

同大学には留学生を専門的に支援する留学生支援部が配置されており、留学生の生活相談・学修相談・進路（就職）相談などトータルサポートを行って

ます。留学生にとって必要となる在籍管理や在留手続き支援はもちろんのこと、日本人学生や地域との交流、日本文化の体験など多彩なイベントも開催しています。

留学生が、日本での生活で抱える問題は多くあります。留学生が安心して生活を送れるよう、留学生支援部を中心としてワンストップの相談体制を構築しています。

学内には、母国語が異なる多くの学生がいますが、中国語を母国語とする職員配置や、翻訳機器・アプリ等も活用しながら、留学生の様々な不安や悩みに対応しています。

◆特色ある教育プログラム『夢の種プロジェクト』

同大学ならではの特色ある教育プログラムとして、『夢の種プロジェクト』があります。本プログラムは、学生が自分で『夢の種』を「探す」「育てる」「咲かせる」ために必要な学びと経験が詰まった同大学独自の教育プログラムです。本プログラムを、留学生も一部の日本語科目などを除いて、日本人と同様のカリキュラムで受講します。個々の日本語レベルも様々であるため、新入留学生全員に実施する面接を通じてクラス分けすることで、留学生一人ひとりのペースに合わせて学べるような工夫も行っています。

「探す」では、入学後の半年間で、な

りたい自分を見つけるため、必修科目を課せずに、3学部7学科の枠を超えて日本人・留学生混合クラス、留学生クラスが編成され、クラス単位で様々な取り組みを実施しています。例えば、異文化体験プログラムでグローバルな視点からなりたいた自分を考えたり、フィールドワークや先輩・卒業生との交流を通じて学びのテーマを見つけて自ら学ぶ力を養ったりするなど、自らの夢を探すためのカリキュラムになっています。

「育てる」では、様々な問題・課題を解決・達成できる力と精神を身に着けるため、実践的な学びを得られるカリキュラムを実施しています。例えば、高い実践力を養うための社会共創プログラム、グローバルな視点を養うための海外留学プログラムを実施しています。また、1年間の活動を通じてやりたいことが変わった場合は、2年生からの転学部・転学科を可能としています。さらには、トライやるイヤー制度という半年から最大1年間のいわゆるギャップイヤー制度も整備されています。

「咲かせる」では、卒業後も見据えた充実の就職サポートを実施し、「キャリア教育」と「就職支援」を連携させながら学生一人ひとりを支援しています。就職希望者全員との1対1の面談や、年間を通して随時開催される学内企業説明会など、学生一人ひとりに応じた、きめ細やかな支援を行い、学生の夢を咲かせる支援を行っています。

◆文部科学省「留学生就職促進教育プログラム」認定の「アジアビジネス人材育成プログラム」

同大学では日本で活躍する海外のビジネス人材育成を目指して「アジアビジネス人材育成プログラム」を2024年4月より実施しています。本プログラムは、文部科学省の「留学生就職促進教育プログラム認定制度」に認定されています。本制度は、文部科学省が認定し、各大学が当該プログラム修了者に発行する修了証明書を就職活動で提示することにより、留学生の国内企業等への就職を促進することを目的に実施されています。

「アジアビジネス人材育成プログラム」は、単位修得が可能な「日本語教育」、「キャリア教育」、「インターンシップ」科目群と、単位修得を伴わない「日本語向上プログラム」、「社会共創プログラム」、「就職サポートプログラム」から構成されています。これらの科目群を1年生から3年生までの3年間で、体系的に実施することで、日本語を駆使し、ビジネスの現場で活躍できる人材の育成を目指しています。

◆多文化共生のキャンパスや学生寮による日本人学生への好影響

同大学は、国際交流を通じて、グローバルな人材育成を推進するため、「国際交流施設 学生寮 RYUTOPIA」を運営しています。本施設では、留学生と日本

人学生が6人（ユニット）で共同生活をして、互いの異なる文化や価値観に触れながら交流を深めています。また、生活の中では異なる文化や価値観ゆえに発生する問題もあります。学生は、それらを解決していく過程の中でも、大きく成長できます。留学生と日本人学生双方にとってメリットがあり、日本人学生は、日本にいながらグローバルマインドを醸成できます。

◆今後の展望

日本の現状や将来の人口動態などを考えると、より日本の成長に貢献するためには、今後は、日本の産業とともに支えるような海外のビジネス人材育成がますます重要になっていきます。同大学では、留学生に対して、生活面・学修面・就職面などでバランスよく一人ひとりに、留学生特有の問題に配慮した充実のサポートを提供していきつつ、変化の激しい時代に応じて、サポート体制のアップデートを図っていくと考えています。留学生が、同大学での学びに真に満足して、社会で活躍できるような循環を作っていくことが、同大学が、社会に対してアウトプットできることであり、存在意義だと考えていると力強く語って頂きました。

同大学で学んだ学生たちが、今後、社会でどのように活躍をしていくのか、引き続き注目していきたいと思えます。

【取材 私学経営情報センター】